

シカ被害対策研修会を開催

令和6年1月25日（木）、豊田流域林業活性化センターは、長門市においてシカ被害対策研修会を開催しました。

県西部地域では、防護柵等による対策をしているにもかかわらず、植栽木がニホンジカの食害を受ける事例が多く確認されていることから、効果的な植栽木の防護方法を習得するために本研修会は開催されました。

当日は、講師に国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 四国支所の岡支所長を招き、講義及び現地研修が実施され、林業事業者や行政関係者等 28 名が参加しました。

午前中の講義では、ニホンジカの生態や防護の方法等についての話があり、防護柵を設置した場合、ニホンジカだけでなくイノシシ等の動物が植栽地に侵入しようとして防護柵を破損するので、点検と補修が必須になるとのことでした。

午後からの現地研修は、森林整備センター山口水源林整備事務所が防護柵を設置した現場で行われ、防護柵の設置位置や施工方法等の説明がありました。講師からは、ニホンジカ、イノシシ、ノウサギ等の動物の視点で防護柵の弱点を見つけることが重要との話があり、参加者は動物になった気持ちで防護柵を見て回りました。

研修後に参加者からは、勉強になったとの声が多く寄せられました。今後、研修で学んだことを現場で実践し効果が得られるように、関係者が協力して取り組んでいきます。



講義の様子



現地研修の様子